



奈良好き人のつどい

15年の軌跡

2010年～2025年



Contents

目次

ごあいさつ 01

特別対談 02

2010年～2013年 立ち上げ 04

2014年～2016年 契機 06

2017年～2020年 進歩 08

2021年～2025年 変革 12

NPO法人奈良好き人のつどいを
支えてくださったみなさんの「私と奈良」 14

奥付 17

ごあいさつ

2025年1月1日、本当に素晴らしい新年の朝が与えられました。東の方を見ると世界遺産にも登録されている春日山原始林の上から太陽が昇ってきました。1300年前の日本の首都・平城京にも同じ初日の出が昇ってきたのではないのでしょうか。平城宮跡の広大な土地の上に、「大極殿」・「朱雀門」そして「南門」が復原され「東西楼」も復原整備されようとしています。薬師寺の東棟、そして興福寺の中金堂などもこれまで再建されました。世界遺産にも登録されている8資産群だけではなく、まだまだ他にも当時のものが残っておりますし、条坊も1300年前と同じように残っているところがあります。足を運び、自分で体感していただき、今も残るその空気・香りを感じていただきたいのです。その思いで2010年3月「NPO法人奈良好き人のつどい」を仲間と一緒に立ち上げました。以来、多くの先生方、社寺の皆様、そして志を一つにする仲間のご支援・ご協力のもと、奈良だけでなく、東京でも奈良文化歴史塾や歴史講座を開講し、多くの奈良ファンが奈良へ足を運んで下さるようになりました。奈良好き人クラブも発足し活動を深めています。15年の歩みを一区切りとして、私辰巳は代表を退任しますが、これからも「奈良好き人のつどい」は奈良ファンの皆様に奈良の文化と歴史、そして緑いっぱいの香りをお届けしてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

NPO法人 奈良好き人のつどい
前理事長 辰巳 裕



辰巳さんとの出会いは、奈良好き人のつどいを立ち上げられた2010年、奈良県主催の「観光見本市」で名刺交換をさせていただいたことがきっかけです。講座への参加や奈良愛を議論する中で、事務局の一員として関わってきました。辰巳さんの奈良への熱い思いと、たくさんの方に支えていただいたおかげで15年間のあゆみがあると思います。奈良の歴史を振り返ると一時かもしれませんが、人生において、想いを持って15年間行動し続けるということは素晴らしいことだと思います。なんでもやめることは簡単で、やり続けることは大変です。そこに共感し理事長を引き受けました。私も奈良で生まれ育ち、編集者として奈良の情報発信を四半世紀続けてきた一人ですので、奈良の魅力をもっとたくさんの方に伝えていきたいという想いは一緒です。奈良の歴史・文化・自然をいろんな角度から体感し、学びを繰り返すことで、知らないことがまだまだたくさんあることに気づいたり、新たに好きな奈良が見つかったり、そんな発見、再発見をみなさんと楽しめるような活動にしていきたいと思います。これまでの15年と違い、変化が激しい時代にどのような世界を描いていけるかは未知数ですが、それも挑戦です。そんな時代だからこそ奈良を学ぶことは重要なかもしれません。これからもご支援よろしくお願いいたします。

NPO法人 奈良好き人のつどい
理事長 徳永 祐巳子



奈良好き人のつどい

15th

これからも、奈良から一步一步

過去と未来をつなぐ今 学びはつづく

奈良文化歴史塾の塾長である西山厚先生と、辰巳前理事長のご縁はどのように始まったのでしょうか。15周年記念企画として、奈良好き人のつどいのこれまで、そしてこれからのことを語り合っていました。

徳永 祐巳子 理事長



辰巳 早いもので、2010年に創立してから15年の節目を迎えます。西山先生と初めてお話したのは、2013年だったと記憶しています。

西山 はい、じっくりとお話したのは2013年でしたね。

辰巳 奈良国立博物館の正倉院展の時に開催されるお茶席で偶然お見かけし、後日ぜひお話を聴かせていただきたいとお電話しました。突然のお願いでしたが、お招きいただき奈良国立博物館の学芸部長室にお邪魔しました。

西山 確か、もつぱら光明皇后について語っていましたね。

辰巳 あの頃私は法華寺のまちづくりに関わっていたのですが、西山先生のお話は「そうだったのか」と新鮮な

驚きの連続でした。

西山 結局辰巳さんはその2時間の対話では満足できず（笑）、2013年のシンポジウムでも光明皇后について語り、翌年から始まる光明皇后のシリーズ講座につながっていきました。全部で7回でした。光明皇后を主役、法華寺や東大寺など開催場所にふさわしいテーマでお話し、最終回は光明皇后の伝説で締めくくりました。光明皇后について語りつくしました。

徳永 光明皇后でつながったご縁だったんですね。

辰巳 当時の私は60代半ばでしたが、ずっと奈良に住んできて、恥ずかしいことに奈良の文化歴史を知っているようで知らなかった。あの2時間を超える西山先生の手ほどきがあったか

ら、それを思い知ることができました。「この話を私一人で聞くのはもったいない！」と感じたことが、奈良文化歴史塾の始まりです。あれから西山先生に導かれてさらに奈良を知り、奈良をどんどん好きになっていきました。私も会員の皆さんと一緒に感動し、共に学んできたのです。

徳永 前々から辰巳さんは熱い奈良愛をお持ちだと感じていましたが、火をつけたのは西山先生でしたか（笑）。

辰巳 奈良の歴史文化を知るには、受け身ではなく自分で学ぶことが、より深い理解につながります。私にとって“西山先生に連れて行ってもらった奈良の歴史”というのは、特別なのです。なにしろ、浪漫があります。

「奈良はこんなにすばらしいところだ」と胸を張って言えるのは、西山先生のお話をたくさん聴かせていただいたからです。

西山 辰巳さんと出会って十数年。奈良の人が奈良を知らない。知りたいと思っている人がそもそも少ないという印象は残念ながら変わらないのですが、少なくとも私が奈良に来た40年前よりは良い方向に進んでいるように思います。

私はかつて「いいものは奈良にある」というテーマで話してきました。今は「いいものは日本にある」と思っています。奈良だけではなく、日本各

地にそれぞれのいいものがあります。そういった視点で日本の歴史文化を語るときに、奈良時代までの古代、あるいは鎌倉時代は奈良という場所が主役なのです。

奈良の歴史は深い。歴史が深いというのは、ゆったりと流れる大きな川と同じです。奈良の歴史は、ゆっくりと心の底に浸透していくものなのです。



辰巳 西山先生は幼稚園や小学校の子どもたちに、そういった思いを伝えてくださっていますよね。それは大変ありがたいことです。

西山 例えば、780年より前の木造建築は、世界中で奈良にだけあります。しかし、ただ残っているのではないですよ。建築当初から現在に至るまで、人々が大事に思ってメンテナンスを続けてきた証です。国宝の仏像も書跡もそうです。お金も時間も手間もかけて修理をし、次の世代につないできた

のですよ。私はこれこそが日本の、日本人の素晴らしいところだと思っています。

辰巳 中国の友人が奈良を訪れた際、「失われたものが奈良にはある。しかも古代と現代が融合している」と言っていたことを思い出しました。

徳永 時が流れ時代が変わっても、変わらずに受け継がれた思いとメンテナンスの連鎖の賜物ですね。

西山 古いものを大事にして、次の世代につなげようとしてきた精神が、これからも受け継がれていくことを願います。

現代はインターネットやSNSが発達して、圧倒的に便利な時代になっています。往時を遥かに上回る情報量を瞬時に集めることが可能です。けれども、自分が成長していないと、いくら情報があっても浅い結論しか見出せない。自分自身がどれほど成長しているかによって理解は変わります。光明皇后がどのように思っていたのかを知りたくて、何十年もかけて研究し続けていても、まだ発見があります。どれだけ考え抜いても、どれだけ調べ続けても、ゆかりの場所にどれだけ足を運んでも、まだまだ発見があるのです。

辰巳 奈良好き人のつどいが、奈良の歴史文化を知るための道標になることができたらうれしいことです。そ

辰巳
NPO法人
奈良好き人のつどい
前理事長

Tatsumi Yutaka

裕

してこれからも、その核に西山先生が案内人としていらっしゃるくださったら幸せです。

15年を思い返してみると、本当にたくさんの方々に助けられてきました。感謝することばかりです。この度徳永さんに理事長を引き継ぎ、大事な思いはそのままに、新しい風が吹き込むことを期待しています。奈良の歴史、文化、自然への学びを続けていく場の一つとして、より多くの皆さんに楽しんでいただけたらと思います。

西山 辰巳さん、ふけこむことなく（笑）、これからも一緒にやっていきましょう。

辰巳 ありがとうございます。
徳永 これからもご指導よろしくお願ひいたします！



西山

奈良文化歴史塾 塾長

Nishiyama Atsushi

厚



NPO法人 奈良好き人のつどい

■ 設立…2010年3月16日 ■ 理事長…辰巳 裕 ■ 会員…30名 ■ 運営スタッフ…6名



2010年3月
平成22年

平城遷都1300年祭が開かれた年に、
「NPO法人 奈良好き人のつどい」が生まれました。

2010年ってどんな年!?

- 平城遷都1300年祭が開かれた年 ■ 平城宮跡の第一次大極殿が復原
- 1981年から開催されていた「奈良春日・大仏マラソン全国大会 第30回記念大会」を平城遷都1300年記念事業として、第1回奈良マラソンにグレードアップして開催



立ち上げた理由には、理事長の熱い想いがありました。

1. 私の好きな奈良の良さを、もっと多くの人に知ってもらいたい。
2. 私の好きな奈良を、もっと多くの人に好きになってもらいたい。
3. 私の好きな奈良に、もっと多くの人に来てもらいたい。

理念

Philosophy

奈良が持つ歴史、文化、自然等を活かし、
奈良の文化・観光を活かした諸事業等を行い、
奈良の経済の活性化に寄与する。

まずは辰巳理事長の住む法華寺町の魅力を発信する企画を立ち上げました。

地域の人々に地域資源を再認識してもらうために

2010年
平成22年

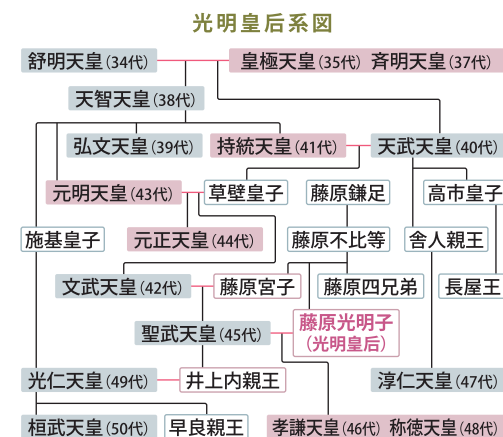
法華寺町プロジェクト立ち上げ

- 地域づくり住民会議
- 地域の人々と地域資源マップ作成
※マップは平城宮跡や町内のホテルで配布



光明皇后ゆかりの地マップ
「光明皇后のたび」

法華寺町とは!?



奈良市の平城宮跡に隣接し、町内に光明子(こうみょうし)ゆかりの法華寺や海龍王寺などがある、辰巳理事長が生まれ育った町です。

法華寺は、聖武天皇祈願の総国分寺の「東大寺」に対して、光明皇后祈願の総国分尼寺として、745年に創建された。時の権力者「藤原不比等」の邸宅跡を、娘の光明子(後の光明皇后)が引き継いだため、光明皇后ゆかりの逸話が数多く残されています。

2011年
平成23年

法華寺町のまちづくり

- 地域づくり住民会議
- 子ども用マップを作成し、ウォークラリー開催
- 認知度アンケート調査(奈良公園・平城宮跡)



2012年
平成24年

- ウォークラリー開催
- 観光交流プログラムの開発
ウォークラリー参加者へのアンケート(評価・ニーズ等)、
また奈良来訪の30～50才代の女性へのヒアリングを行い開発に活用



2013年
平成25年

- 「光明皇后ゆかりの地」に関する認知度アンケート調査(平城宮跡・奈良公園)
- 「光明皇后ゆかりの地」マップの作成
- 光明皇后をキーワードとした社寺の連携に向けた女性会議の開催
- 「光明皇后ゆかりの地」スタンプウォークラリーの開催
- 光明皇后シンポジウムの開催



光明皇后に興味を持ってもらい、マップを使って観光したくなることを願って。

15年の軌跡

奈良好き人のつどい

契機

2014年～2016年



2014年
平成26年

活動が続けていく中で、奈良の歴史・文化の本質を理解してもらいたい、そんな奈良のファンを増やしたいと心から思うようになっていました。

もっと光明皇后を深く掘り下げていきたい！

光明皇后の事績をたどる新たな観光交流プログラムを開発し、奈良文化歴史塾・塾長 西山厚先生の「光明皇后学び塾」を開催。現在の講座活動の基本となる『**セミナー＋現地体験**』というスタイルが生まれました。

女性の時代といわれていた頃、歴史上輝く光明皇后をキーワードとして、今までになく多くの女性に参画いただける取り組みを行いました。

■光明皇后学び塾の開催(3回) ■シンポジウム「光明皇后の事跡をたどる」の開催 など

東京の奈良ファンに向けても講座を開催

- 光明皇后まなび塾(奈良)の開催(3回)
- 奈良歴史塾(東京)の開催(2回)
- シンポジウム「光明皇后を慕う」
- 提携講座「お水取りの歴史」(東大寺史研究所研究員・坂東俊彦氏) など



定期的な講座で学びを深めました。

- 奈良文化歴史塾(奈良)の開催(3回)
- 奈良歴史塾(東京)の開催(2回)
- 山の辺 万葉ものがたり(上野誠教授)
- 「西山教授と冬の奈良を堪能する」と題した東大寺二月堂修二会と春日大社参拝の講座の開催

2016年
平成28年

Report

瑞宝双光章受章 記念講演会「奈良と、私」

全国各地での講演会、各所カルチャーセンター講座やラジオ出演など多方面でご活躍の西山厚先生が2023年秋に瑞宝双光章を受章されました。瑞宝双光章は、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与される勲章です。

2024年6月8日(土)、新緑が眩しい時節にお祝いの講演会を開催し、たくさんの方にお集まりいただきました。これまでの講座とは違い、もう一步深く先生の人生や奈良国立博物館の学芸部長時代のお話などを語っていただきました。「西山先生の講演を聞いてから奈良を



より好きになりました」という参加者にとっても、さらに西山先生を深く知る機会になったのではないのでしょうか。西山先生、誠におめでとうございます。



西山 厚 先生

Nishiyama Atsushi

奈良国立博物館名誉館員
帝塚山大学客員教授

Profile

徳島県鳴門市生まれの伊勢育ち。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。奈良国立博物館で学芸部長として「女性と仏教」など数々の特別展を開催。主な著書に『仏教発見!』『僧侶の書』『語りだす奈良 118の物語』『仏像に会う 53の仏像の写真と物語』『語りだす奈良 1300年のたからもの』など。さまざまなメディアを通して、生きた言葉で書き、語る活動を続けている。

2014年～2024年 西山厚先生の講座一覧

実施日	テーマ	場所	実施日	テーマ	場所
2014.8.27	光明皇后と法華寺	法華寺	2018.3.28	薬師寺「修二会花会式」を学ぶ	薬師寺・奈良パークホテル
2014.9.17	光明皇后と聖武天皇	東大寺	2018.7.4	信仰と美術、そして人「十一面観音への旅」	国際フォーラム豊
2014.10.1	光明皇后と正倉院宝物	遊景の宿平城	2018.9.5	信仰と美術、そして人「源信 浄土を夢見る」	国際フォーラム豊
2015.2.27	シンポジウム「光明皇后の事跡をたどる」	興福寺会館	2018.11.28	信仰と美術、そして人「秋篠寺と伎芸天」	国際フォーラム豊
2015.8.5	光明皇后と新薬師寺	新薬師寺	2019.1.23	重源上人 鎌倉時代の大仏復興	東京
2015.9.16	光明皇后と遣唐使	国際フォーラム豊	2019.2.20	公慶上人 江戸時代の大仏復興	東京
2015.10.14	伝説の中の光明皇后	法華寺	2019.3.7	特別講座「東大寺二月堂修二会」	東大寺二月堂
2015.10.28	仏像はやっぱり奈良だ！	東京	2019.3.28	特別講座「薬師寺花会式」	薬師寺
2015.11.25	冬の奈良の魅力	東京	2019.5.22	霊山寺と菩提傳那	霊山寺
2015.12.16	「東大寺を創った人々 良弁と重源」「春日若宮おん祭」	国際フォーラム豊	2019.9.11	聖徳太子と達磨大師	達磨寺
2016.2.6	シンポジウム「光明皇后を慕う」	春日大社	2019.10.29	特別講座 正倉院展を堪能する	ホテルサンルート奈良
2016.5.18	貞慶 知られざる高僧	国際フォーラム豊	2019.11.13	當麻寺と中将姫	當麻寺中の坊
2016.7.13	叡尊 こんな人がいた！	西大寺	2020.1.22	鑑真和上と唐招提寺	東京
2016.9.7	鑑真 目は見えていた	唐招提寺	2020.9.16	聖武天皇と良弁僧正	ホテル尾花
2016.12.12	よみがえる奈良、1300年の歴史「聖武天皇と大仏」	東京	2020.10.14	藤原不比等と光明皇后	ホテル尾花
2017.1.23	よみがえる奈良、1300年の歴史「光明皇后と阿修羅」	東京	2020.11.11	称徳天皇と道鏡	ホテル尾花
2017.3.8	東大寺二月堂修二会と春日大社参拝	国際フォーラム豊	2021.7.7	疫病をこえて歴史に学ぶ	ホテル尾花
2017.9.13	奈良の大寺を行く「薬師寺にみる愛の物語」	薬師寺	2021.11.10	正倉院展を深く味わう	ホテル尾花
2017.10.11	奈良の大寺を行く「大安寺と道慈」	大安寺	2022.4.26	親鸞聖人を学ぶ	ホテル尾花
2017.11.22	奈良の大寺を行く「はるかなる元興寺」	元興寺	2022.5.31	法然上人を学ぶ	ホテル尾花
2017.12.8	奈良の大寺を行く「大安寺と道慈」	東京	2022.7.5	公慶上人を学ぶ	ホテル尾花
2018.1.26	奈良の大寺を行く「薬師寺にみる愛の物語」	東京	2023.6.16	絵巻絵伝を楽しむ一信貴山縁起絵巻	信貴山朝護孫子寺
2018.3.8	東大寺二月堂修二会「お水取り」	二月堂・国際フォーラム豊	2024.6.8	瑞宝双光章受章 記念講演会「奈良と、私」	国際フォーラム豊

2017年

平成29年

奈良の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたい！

奈良県内の社寺とのつながり、奈良ファンとの交流を深めることを目的に「奈良好き人クラブ」を立ち上げました。

- 奈良好き人クラブ発足イベント「春日大社～橿原道を歩く～」
- 興福寺 多川執事長のお話と国宝館拝観
- 奈良文化歴史塾「奈良の大寺に行く」(奈良3回・東京2回)
- 道路協力団体に認定されました
- 東大寺二月堂修二会「お水取り」講座
- 薬師寺「修二会花会式」を学ぶ など



2018年

平成29年

「道」をテーマに、奈良の歴史を学ぶ機会をつくりました。

- 冊子「つなぐ つづく 道～古代から未来へ～」を発行
- シンポジウム「道を学ぶ！」を開催
- 奈良文化歴史塾「信仰と美術、そして人～本当の奈良を識る～」(奈良3回・東京2回)
- 東大寺二月堂修二会「お水取り」講座
- 薬師寺「修二会花会式」を学ぶ
- 国道24号沿いにて野菜を販売する「道の市場」を開催



2019年

平成31年・令和元年

日本の首都「平城京」の理解を深めるために、「道」をテーマに講座を開催。

- 冊子「道がつなぐ 古の平城京と未来のなら」を発行
- シンポジウム「道がつなぐ 古の平城京と未来の奈良」を開催
- 特別講座「応仁の乱と興福寺」「中金堂・北門堂」特別拝観開催
- 奈良文化歴史塾「信仰と美術、そして人～本当の奈良を識る～」(3回)
- 特別講座「正倉院展を堪能する」
- 日本古代の京を識る(講師 田辺 征夫 先生)
- ウォークイベント「館野先生と二条大路を歩く」
- 国道24号沿いにて野菜を販売する「道の市場」を開催 など



2020年

令和2年

「NPO法人 奈良好き人のつどい」10周年を迎える

コロナ禍の社会情勢も踏まえ、2019年の企画をさらに発展させたシンポジウムを通して、平城京、さらには奈良の持つ役割とは何かの理解をさらに深める機会をつくりました。

- シンポジウム「古の平城京と未来の奈良」を開催
- 日本書紀編纂1300年記念
奈良好き人のつどい10周年記念特別講座
「古代の奈良を生きた人々」を3回開催(講師 西山 厚 先生)
- 「奈良からのお便り」発行(年4回)
- 国道24号沿いにて野菜を販売する「道の市場」を開催



挑 戦

01

2017年

「奈良好き人クラブ」の設立



「奈良好き人クラブ」発会式の様子



奈良好き人クラブ通信
第3号(2018年4月発行)



奈良好き人クラブ通信
第6号(2019年10月発行)

会員向けに各種講座の開催や、きめ細かな情報の提供を行いました。

これまでは光明皇后をテーマに講座を開催してきましたが、奈良の魅力をもっとたくさんの方に知っていただきたい、奈良をもっと好きになってもらいたいとの思いで、『奈良好き人クラブ』を設立。

【奈良好き人クラブ】

年会費 2,000円

- なら歴史塾の受講料割引
- 会報の発行
- 「奈良のコンシェルジュ」としてのお役立ち
- 歴史塾・シンポジウムの案内
- 入会記念品の贈呈

Report

奈良好き人クラブ会員限定 発足記念イベント 春日大社～橿原道を歩く～

2017年4月に当団体の会員クラブ「奈良好き人クラブ」を立ち上げました。奈良が好きの方、奈良をもっと知りたいという奈良好きのみなさんにお申し込みをいただき、約80名の登録がありました。この会の発足を記念して7月24日(月)、奈良好き人クラブの会員約40名の参加のもと、奈良好き人クラブ発会式を春日大社で開催しました。春日大社の権禰宜(ごんねぎ)・千鳥祐兼(ちどり すけかね)氏のご講話とご案内で、会員の皆さんと一緒に「橿原道」について学びました。



Report

奈良好き人クラブ特別講座 ロータスロード喜光寺

2018年6月23日(土)、奈良好き人クラブ会員限定企画として喜光寺にて高次喜勝副住職の講座を開催しました。あいにくの雨模様でしたが、若手住職としてご活躍の高次さんのお話は活気があり、わかりやすく親しみやすいもので、心をパッと晴らせてくれる時間でした。知っているようで意外と知らない蓮のことを学び、特別に象鼻杯を体験させていただきました。蓮の茎の爽やかな香りを感じ参加された方も大変喜んでくださいました。



道をテーマに過去と未来をつなげる企画

一般社団法人「近畿建設協会」の地域づくり・街づくり支援事業の支援を受け、道路協力団体の活動の一つである「道路に関する啓発事業」として、『道を学ぶ!』をテーマにした以下の活動を行いました。

2018年 「奈良の道を学ぶ勉強会」を開催



つなぐつづく道
~古代から未来へ~
(2018年8月31日発行)

奈良の未来を考えるために過去を学ぶ活動を続けていくなかで、古代より奈良に存在する「道」のことに興味を湧き始めました。さまざまな分野の専門家の方々にご参加いただき、大和の道、道の起源、古代の道の役割などについて議論をし、その内容を冊子にまとめました。



原 久弥さん

近畿地方整備局 奈良国道事務所長

奈良にきたばかりの私にお声がけいただき、奈良の歴史、古代から現在に続く大和の道や平城京を知る大変貴重な機会をいただいたことに、ただただ感謝しかありません。Withコロナでもこの活動が続くことを祈念しております。

2019年 「道がつなぐ 古の平城京と未来の奈良」シンポジウムを開催



【基調講演】

館野 和己 (奈良女子大学名誉教授)

【パネルディスカッション】

館野 和己 (奈良女子大学名誉教授)

井戸 智樹 (地域連携研究所代表理事)

令和元年12月13日(金)、平城宮跡でない館多目的室にて「道がつなぐ 古の平城京と未来の奈良」シンポジウムを開催。

古木 治郎 (国営飛鳥歴史公園事務所調査設計課長)

辰巳 裕 (NPO法人奈良好き人のつどい理事長)

「古の平城京」について、学びを深める



2019年

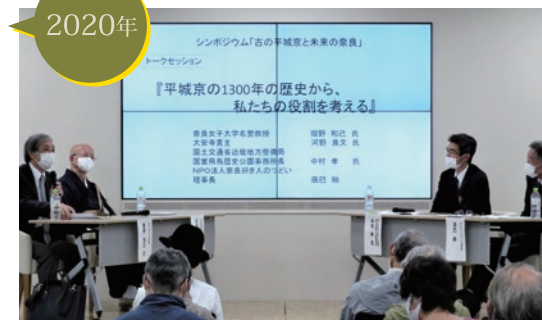
令和の時代の幕が開け、「道」という視点で1300年前に都があった平城京について考える研究会を3回開催。100年後、1000年後の未来に向けて平城京をどのように守り、知っていくのか。さまざまな分野の専門家の方々のご意見と研究会で提案されたことを冊子にまとめました。

道がつなぐ 古の平城京と未来の奈良 (2019年12月13日発行)



ウォークイベントも開催

2020年



【基調講演】

館野 和己 (奈良女子大学 名誉教授)

【トークセッション】

パネラー：河野良文 (大安寺 貫主)

館野和己 (奈良女子大学 名誉教授)

中村 孝 (国営飛鳥歴史公園事務所 所長)

進行 役：辰巳 裕 (NPO法人奈良好き人のつどい理事長)

シンポジウム 「古の平城京と未来の奈良」からの提言

1. 平城京を理解し体感しやすくなるように、条坊の様相が現在の人々にもわかるような仕組み・取り組みを進めましょう。
2. 平城京跡に残る文化遺産が永続的に保存され、持続的に活用され、そして1000年後においても、人々に愛され続けられるような取り組みを進めましょう。

道路協力団体

「道路協力団体制度」とは!?

「道路協力団体制度」は国土交通省が所管し、道路における身近な課題の解消や道路利用者のニーズへのきめ細やかな対応などの業務に自発的に取り組む民間団体等を支援し、地域の実情に応じた道路管理の充実を図ることを目的とした制度。

清掃活動

年3回国道24号を清掃し、美しい奈良の維持に協力しています。法華寺町自治会・一条高校の先生や生徒と手を携えて行っています。

収益活動

「R24道の市場」を開催し、地元地域の野菜や大和高原野菜・加工品の販売を行っています。収益金は、清掃活動時の消耗品・備品購入に充当します。

道路にかかる、情報発信・PR活動

一般社団法人「近畿建設協会」の地域づくり・街づくり支援事業の支援を受け、『道を学ぶ!』をテーマにした冊子の作成、講演会やシンポジウムの開催、道の遺跡探訪を行いました。



「奈良からのお便り」の発行

今まで年2回の会報発行をしてきましたが、2020年4月から『奈良からのお便り』としてリニューアル。年4回(新年・春・夏・秋)の発行を続けています。



15年の軌跡

奈良好き人のつどい

変革

2021年～2025年

2021年
令和3年

2020年に10周年を迎え、
記念誌「10年の歩みと更なる歩みを」発行しました。

- 特別講座「奈良詣で」
- 奈良文化歴史塾「疫病をこえて歴史に学ぶ」
- 特別講座「こすもすのお寺・巨樹の神社を歩こう」
- 古代歴史講座「平城京の終焉とその後」
- ウォーキングイベント「六条大路を歩く」「九条大路を歩く」
- 奈良文化歴史塾「正倉院展を深く味わう」
- 古代歴史講座「平城京を中心とした日本古代の交通」
- シンポジウム「平城京を未来に」(オンライン)
- 「奈良からのお便り」発行(年4回)
- 国道24号沿いにて野菜・加工品を販売する「道の市場」を開催



2022年
令和4年

「奈良の七大寺」について学びを深める企画をスタート！

- 春日大社特別参拝
- 奈良文化歴史塾「親鸞聖人を学ぶ」「法然上人を学ぶ」「公慶上人を学ぶ」
- 平城京の条坊の活用について意見交換
- 平城京内の遺産の条坊を通しての活用
- 古代歴史講座「守り伝えたい平城京」
- 奈良の七大寺を学ぶ「東大寺」「大安寺」
- ウォーキングイベント「下ツ道を歩く」
- 「奈良からのお便り」発行(年4回)
- 国道24号沿いにて野菜・加工品を販売する「道の市場」を開催



2023年
令和5年

久しぶりに、東京での講座を開催！

- 奈良文化歴史塾「絵巻絵伝を楽しむー信貴山縁起絵巻」
- ウォーキングイベント「佐紀盾列古墳群を巡る」「上ツ道を歩こう」
- 奈良の七大寺を学ぶ「西大寺」
- 守り伝える平城京『なぜ、平城京に』東京講座
- 奈良シンポジウム「守り伝える平城京『花開く平城京』」
- ウォーク講座『今も残る東一坊大路を探る』
- 『完成した古代の都 平城京』奈良講座
- 冊子「令和の今 守り伝えたい平城京」発行
- 「奈良からのお便り」発行(年4回)
- 国道24号沿いにて野菜・加工品を販売する「道の市場」を開催



2024年
令和6年

5月総会にて、理事長の交代を行いました。

- 西山厚先生の瑞宝双光章受章記念講演会「奈良と、私」を開催
- 奈良の七大寺を学ぶ「薬師寺」
- ウォークイベント「上ツ道ウォーク」
- 特別歴史講座&プチウォーク「石上神宮」
- 世界遺産事業「奈良・文化財の楽しみ方～平城宮跡～」
- 古代歴史塾「平城京を守り伝える」
- 「国営平城宮跡歴史公園のこれから」「平城京 すまいと暮らし」
- 「奈良からのお便り」発行(年4回)
- 国道24号沿いにて野菜・加工品を販売する「道の市場」を開催



2025年
令和7年

設立15周年を迎える



10周年記念冊子
「10年の歩みと
更なる歩みを」発行

2021年に設立から10周年を迎えたことを記念して、10周年の活動をまとめました。

七大寺を学ぶ

奈良を見守り続ける、天平文化を支えた七つのお寺を順番に巡り学ぶ講座です。



「令和の今 守り伝えたい古の平城京」
冊子発行

これまで学びを重ねてきた平城京について、集大成として、田辺征夫先生の奈良講座の内容と、平城京の条坊の見える化をテーマに議論した内容をまとめた冊子を発行しました。

平城京の魅力を再発見

一般社団法人近畿建設協会や国営飛鳥歴史公園事務所の支援を受けて、平城京の魅力を再発見することを目的とし、道(条坊)をテーマとする講座やウォークイベントを開催しました。コロナ禍中は、オンラインや動画配信を取り入れ、コロナが落ち着いた時期には東京講座を再開し、奈良の魅力を伝える機会を創出できました。

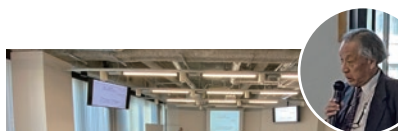
2021年 「リモートで届ける奈良の魅力と心」と題し、古代歴史講座では「平城京の終焉とその後」(講師:田辺征夫)、「平城京を中心とした日本古代の交通」(講師:館野和己)、ウォーキングイベントでは会員の西田氏による「六条大路を歩く」「九条大路を歩く」、そして、オンラインシンポジウム「平城京を未来に」を開催しました。



2022年 「平城京の見える化」と題し、「条坊を歩く」映像の制作、下ツ道ウォーク、そして、平城京の認知度をはかるアンケート調査や、条坊会議を通して平城京についての学びを深めました。今後の官民一体となつての取り組みに向けての素地ができた実感しています。

「平城京の見える化」と題し、「条坊を歩く」映像の制作、下ツ道ウォーク、そして、平城京の認知度をはかるアンケート調査や、条坊会議を通して平城京についての学びを深めました。今後の官民一体となつての取り組みに向けての素地ができた実感しています。

2023年 コロナ禍で途絶えていた東京講座を開催できました。奈良ではシンポジウム、そして、条坊を学ぶ平城宮跡周辺をウォーキングしました



2024年 現在の平城宮跡の復原状況とこれから、そして、かつての平城京での暮らしについての講座で、平城京の今と昔について学びました。

現在の平城宮跡の復原状況とこれから、そして、かつての平城京での暮らしについての講座で、平城京の今と昔について学びました。

世界遺産「古都奈良の文化財」30周年に向けて
「古都奈良の文化財」を守り伝えるプロジェクト

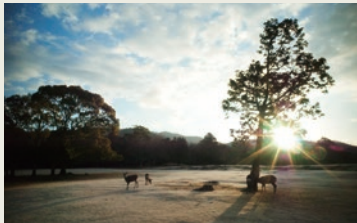
奈良市の世界遺産「古都奈良の文化財」は2028年に30周年を迎えます。25周年を迎えた2023年に勉強会を行い、「古都奈良の文化財」を守り伝えるプロジェクト実行委員会(実行委員長 田辺征夫氏、副委員長・辰巳裕)を立ち上げました。奈良好き人のつどいも関連団体として、令和6年度文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)交付を受け歴史講座を開催しました。

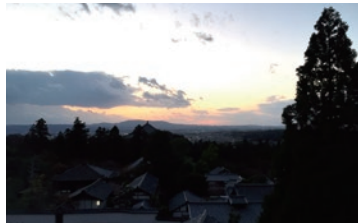


理事長
交代



2024年5月の総会にて、辰巳裕より徳永祐巳子が理事長を引き継ぎました。辰巳理事長、長年お疲れさまでした。これからも理事としてよろしくお願いします。

Message from 奈良好き人			
「 Message from 奈良好き人 」 NPO法人 奈良好き人のつどいを 支えてくださったみなさんにとっての 「私と奈良」 みなさまにとっての奈良はどのような場所でしょうか？ その魅力や、思い出、好きな場所、奈良に思うことなど、 自由に想いを綴っていただきました。			
田辺 征夫さん (公財)元興寺文化財研究所 所長 半世紀以上、奈良とかかわってきました。思い返せば、奈良に就職するにあたって何の抵抗感もなかったのは、奈文研が考古学の中核組織であったことありますが、それ以前からの繋がりも大きかったのかもしれませんが。父方の祖母の出身が桜井市の大福で、子どもの頃、奈良公園に連れてこられたことをぼんやり覚えています。高校生の頃には、奈良の寺々が好きで何度も訪れていました。生まれた土地でもない奈良とのつながりを感じるのはそんなところに遠因があるのかもしれませんが。	井戸 智樹さん (一社)世界文化遺産地域連携会議お世話役 約40年前、堺屋太一先生から「歴史街道計画」で21の歴史舞台を繋ぐ「日本文化の入門コース」を創るとお誘いをいただいた。各現地をじっくり訪問したことすらなかったため、21の場所を巡った。その際に出会った平城宮跡。今のように復原作業は進んでおらず、大内裏の台座に腰掛けて考えた。710年からの歴史の流れがあり、国や歴史の中心になった場所。よくよく考えれば今は自分だけがそこにいる。「これは面白いかも?」と思った。人生が大きく変わった瞬間でした。	館野 和己さん 奈良女子大学名誉教授 奈良に住むようになって41年が過ぎました。ここは私にとって、家庭・職場のある所であり、また研究対象でもあります。いくつもの意味で、奈良に住めて幸いだったと思います。平城宮跡で発掘を行う、古社寺を巡る、現在の道路に平城京の名残を感じる、復原された大極殿の上から周囲の山々や古墳を眺め、都が「四禽図に叶い、三山鎮めをなす」地であることを実感する。どれもかけがえのない体験です。その奈良の歴史がより鮮明になるような、まちづくりを期待したいところです。	柳澤 秋介さん 国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所長 15周年おめでとうございます。令和5年から国営平城宮跡歴史公園の整備・管理を担当し、現在は第一次大極殿院東樓の復原整備などを進めています。県庁への出向時代を合わせると、家族とともに奈良に来て5年、小学生だった子どもたちも大学／高校受験を迎えようかという年に。今や私にとって奈良は「子育ての地」となりました。歴史・文化を体感する空間づくりを通じ、奈良の奥深い魅力を高める一助となるべく、これからも鋭意取り組んでまいります。 
筒井 寛昭さん 東大寺長老 私たちは、奈良をどの様にしようとしているのでしょうか。奈良の世界遺産登録から1/4世紀過ぎました。奈良に関心を持って下さる方が増えたのは喜ばしいことですが、それだけに終わってしまわないようにしたいものです。日本独特の文化を私たちが一人一人努力して残していくことも大切ですが、それを受け継いでくれる子どもたちを育てなければなりません。何をもちて日本と言えるのかを見直さなければならぬ時期に来ていると思います。奈良は、それが出来る所でも在ります。	村田 武一郎さん 奈良フェニックス大学 運営委員長・学長 いつまでも「いいにえ」の奈良と新しいコト・モノが積み重なる奈良の両立を望みます。本質を大切に、古い魅力を現代風にアレンジして訪れる人たちに愛され続ける奈良、一目おかれる奈良であってほしいと思っています。他からの提案や指摘、来訪者の想いやウォンツを真剣に受け止め、愛され続ける奈良、一目おかれる奈良へと、県民一丸となって進んでください。	竹田 博康さん 奈良県観光局長 『#凜とした空気がたまらない』と自分の気持ちを込め、毎日SNSで投稿するようになって1300日を超えました。ゆっくり時間が流れ、ものごとを落ち着いてゆっくり考えることのできる場所、それが奈良です。また、奈良はどこに行っても空が広く、奈良公園や平城宮跡、藤原宮跡のほか、明日香村では特にそう感じます。さらに、奈良は至るところに神々しい場所があると感じます。これからも、日本のはじまりの地である奈良と向き合いつつ、ゆっくり楽しく過ごしていきたいと思います。	鍛冶 佳広さん 株式会社鍛冶商店 会長 人口減少、高齢化の進む中で、奈良市民はどう文化、文化財、自然環境を守っていくか？個々人からの税収も減少する中で、"奈良を守りたいという心"だけでは無理。この町を守るには、資金と原資となる安定収益を永続的に得ていかねばなりません。そのためには、オーバーツーリズムにならないよう配慮しながら、先鋭的な観光で外貨を獲得していく必要があります。誰も助けてはくれません。自分の町は住民自らの力で資金を稼いでいくしかないので。
乾 昌弘さん 株式会社明新社 代表取締役社長 近鉄奈良駅近くに生まれ、世界遺産にも登録された神社仏閣の建造物や仏像に囲まれて育ち60数年、なんと言っても朝もやがかかる日の出の頃の奈良公園。人がほとんどいない公園でのんびり過ごす鹿たちの美しい姿を当たり前のように見られることは至高の贅沢そのものです。こういった先人からの歴史文化を大切にしつつ新しい文化を生み出し、さらに一層シビックプライドを醸成する、そんな奈良になるために微力ながらも今後も尽力していきたいと思います。	中川 直子さん (株)奈良シティアフエムコミュニケーションズ 代表取締役 奈良以外で生まれ育った期間と、奈良に住みながら、奈良を全く知らなかった期間。そして、奈良を知りたくて奈良を伝えることをしようとしている期間がちょうど同じぐらいになりました。引っ越してきた当初、教科書で知っていた場所がたくさんあって驚いた奈良は、知れば知るほど奥深く、いつまでたっても知らないことばかりですが、今では、他の地域の人たちに奈良を自慢している自分があります。	川野 正彦さん スタイルジャパン研究所 主宰 経営学者ミンツバークの言葉です。「人々は長らく政治に期待してきた。いつかは自分たちの暮らしを、社会を良くしてくれるだろう。次にビジネスに期待した。しかし、どちらも実現しなかった。今、社会には、政治でも、ビジネスでもない、第3の柱となるセクターが必要になっている。これら3つのセクターのバランスこそが社会を改善する鍵である」と。「奈良好き人の会」は、その第3のセクターに該当するのかも知れません。 	伊藤 努さん 国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所長 奈良は県内各所に、遺跡・古墳、多くの神社仏閣等の文化遺産があり、長い年月の間、多くの「奈良のひと」の信仰や生活等により守り受け継がれてきた、歴史に幅がある非常に素晴らしい地域だと思う。ただ、移動に時間がかかるために、多くの観光客が、奈良の魅力全体を味わうことなく帰られていることが非常に残念だ。そのため、京奈和道をはじめ「奈良の道」を整備することでより奈良を知ってもらうことが私の使命であり、そうすることで、私も「奈良のひと」の一人になりたいと思う。
		須和 隆彦さん 奈良八重樫の会会長 北海道出身の私にとって奈良は、歴史の教科書で垣間見ていた世界でした。ご縁があり、奈良で社会人としてスタートを切り、関りも半世紀を超え多くの方々との出会い、様々な経験の積み重ねにより、今では心の拠りどころとなっています。奈良には他地域が及ぶべくもない歴史の深みと文化の厚みが今に伝わり、その一端に触れながら、先人たちがら渡され、次代へつなぐため「なか今を生きる」者として、関わってまいります。	平松 温子さん ライター 奈良が好きで、ライターという仕事柄もあり、折に触れて奈良を訪れておりましたが、結局は来訪者として表面的な部分の奈良しか味わうことができていませんでした。「奈良好き人のつどい」を通して様々な奈良の「表情」を見ることができました。そうした意味で「奈良好き人のつどい」は私にとって奈良の恩人です。「奈良好き人のつどい」はひとつづの種。いろんな人がこの種を手に入れて、それぞれの花を咲かせていくのだと思います。これからも、楽しい集いに期待しております！
		可 越さん 華文書院 副書院長 私にとって、奈良は心の故郷のような存在です。日本へ来て30年間が経ち、いまは小学生たちに中国語と中国文化を教えておりますが、奈良を語る度に古代の中国に戻ったような気分で、その深い絆に年齢の重ねと共に深く感じております。鑑真和尚のお寺はもちろん、特に奈良で生活している普通の人々に癒されております。大気、生氣、正氣なのでしょうか。万物生成の中心となる良い「氣」は奈良で感じており、何度行っても飽きない心のふるさとして。 	竹田 佳宏さん 国土交通省 近畿地方整備局 今から40年くらい前の小学校の遠足から奈良の思い出が始まり、働き始めてから、奈良を訪れる機会も増え、なんとなく居心地のいい雰囲気がとても気に入っています。最近では、「奈良好き人のつどい」の活動の中で、奈良の歴史について学び、道路沿いに奈良の魅力がいっぱい点在していることを知りました。また、国道24号の清掃活動や「道の市場」の活動も、地域の方との交流ができる楽しみの一つです。国道24号を地域の皆さんの交流にも活用いただけるようこれからも活動していきます。 

大久保 衛さん 整形外科専門医 滋賀で生を受け大阪で社会人に、奈良に住んで30年。地の利を活かさない手はないと思い立ち、ご当地検定を受け、県内を訪ねるようになった。当会入会もその一つ。古墳時代から平城京までも、数百年以上の時が刻まれている。最近、友人を高畑界限に案内したが、大正から昭和の話題にも事欠かない。正倉院を持ち出すまでもなく、古いものを大切にすることが今も息づいている。そんな奈良をもっと歩いて見て知って、その時々の人びとの息づかいに少しでも触れてみたい。	立石 堅志さん 奈良市観光戦略課学芸員 今年は昭和100年という。私はその35年目に奈良で生まれ、奈良で育ち、奈良で学び、奈良で暮らし、奈良で働いている。そして奈良を学び、奈良に学んだ。基本的に奈良にどっぷり浸かっている。だからと言って、私は奈良の全てを好きなわけではない。そうでないところだって、実はいっぱいある。でも、私は奈良が奈良として長い道を歩み、これからも続いていくことを願っている。私は、奈良に何ができるだろう。そんなことを考えながら、私は奈良と共に在る。	栗田 優美さん 朝日新聞社人事部(元奈良総局記者) 二上に隠らぶ月の惜しけども妹が手本を離るるこのころ 万葉集巻11の2668番 奈良好き人のつどいのみなさんと、上野誠さんの案内で山の辺の道の檜原神社周辺を歩いたことがあります。「朝日の三輪山と落日の二上山を見れば、古代を実感できるだろう」。奈良盆地の向こう側、二上山に沈む夕日に上野さんの言葉が重なりました。当時、県外に奈良の宝物を発信する連載をしていたのですが、あまりのエモさに「特別編」として紹介したほどです。万葉びとの心を感じられる、特別な場所です。 	藤山 好典さん 写真家 AONI PHOTO代表 奈良はとつても歴史が深い。歴史が深いだけでなく文学も多様に残されている。その中でも万葉集は日本で一番古い歌集であり、天皇から庶民まで、多くの人々の生活を見ることが出来る。私が万葉集に惹かれるのは単に時代を詠んだ歌だけでなく、四季の花々を通して恋物語が語られているからだろう。「あの花が咲いたらあの人に逢えるだろうか」「この花が枯れても私を愛してくれるでしょうか」そんな他愛もない万葉歌を想いながら、これからも万葉の花を撮り続けたい。	奥 俊也さん 奈良好き人のつどい 監事 奈良は国宝や世界遺産の数が最も多く、文化財の宝庫。その中心地で仕事をしながら、観光に興味を持つこともなく定年を迎えました。その後、岡山の叔父に誘われ新薬師寺を観に行きました。薬師如来を囲むように配置された十二神将は、奈良時代に流行した塑像造仏彫刻で最大で最古の作品。勇ましく、甲冑に身を固め、剣や鉾を持ち、激しい怒りを表現していたが、化身した姿であり如来や菩薩などの本当の姿が存在する。目から鱗でした。この歳になって奈良の魅力を発見し、好きになりました。	清水 統裕さん 奈良好き人のつどい 監事 奈良好き人のつどい、設立15周年を迎えることができ、心からうれしく思います。私が奈良で仕事をさせて頂いてから、もう59年になります。三重県生まれの私が奈良に来て一番困ったことは、地名が読めなかったことです。例えば、京終(きょうばて)、阿字万字(あぜまめ)、大豆山(まめやま)、帯解(おびとけ)等です。市民の方からは、これぐらいは読んでもらわないと、とよく言われました。今となつてはほろ苦い思い出の一つです。これが私と奈良の一番の思い出です。
藤田 昌宏さん 奈良ホテル 奈良市内で働く様になって30余年が経つ。30代はじめまでは歴史にもそれほど興味も無かったが多くの方から奈良の素晴らしさや歴史の奥深さを聞き、少しずつ興味が湧いていった。色々な行事やお祭りを見学していると新たな疑問が湧き、自身で調べたり、教えて頂いたりしている内に奈良の魅力に取り憑かれている自分がいた。まだ奈良の奥深さの一端に触れただけだ。これからは奈良の魅力を発信し、一人でも多くの奈良ファンを増やしていきたい。	福永 十津さん 日本ペンクラブ会員 現在と古代、生活と祈り、島と大陸、これらの対比のまん中に流れる大きな川の、水底にひそむ幻の都が奈良なのです。ここに壁ちたら時間が止まり、千年前の光景が立ち上がり、人の営みがただ森のように繁っていて、今と昔も、生と死も、中国と日本だって、大した違いが無いように見えてしまいます。幻ですから中心も見所もなく、立ち止まった所みんな奇跡、退屈なのは学びが足りないのです。今は、京都府に侵された木津川の兩岸、南山城に夢中です。 	市川 重則さん 薬王製薬(株)代表取締役 奈良は私にとって、ただの故郷ではなく心の拠り所です。古都の静けさの中に息づく歴史や文化が、日々の営みと深く結びついていると感じます。好きな場所は東大寺二月堂から見る夕陽で、心を落ち着かせ、日々の喧騒を忘れさせてくれる大切な場所です。家内も一番好きな場所で共にその景色を共有しながら、奈良の魅力を再確認することが明日の活力になります。伝統的な風景と現代が調和したこの場所で、これからも暮らし、事業を育んでいきたいと感じています。 	養輪 美恵さん ホテル尾花 フロントスタッフ 奈良に移り住んでからホテルに勤める私にとって、御縁のほとんどは主に県外からの宿泊のお客様でした。そんな私に新たな御縁を深めてくださったのが「奈良好き人のつどい」のディスカッションの場でした。奈良の素晴らしさを発信しようという皆様と、そこに集う奈良愛あふれる方々にお会いして、次のステップがはじまりました。奈良は学びの場であり、学ぶ人を仲間に入れてくださる大きな存在です。微力ながら皆様の活動を応援しつつ、私自身も成長していきたいと思います。	八尾 博さん 奈良好き人のつどい事務局 私が幼少のころの奈良の観光地は、奈良公園、東大寺が主なところであつた。また、自宅の近くには世界遺産の元興寺があり、幼いころは境内でよく遊んだ。近所には八百屋、肉屋、魚屋、たばこ屋等の小売店がたくさんあつた。しかし、昭和60年以降降町並み保存が進み、古民家を活用したカフェや雑貨店等多くでき元興寺周辺を「ならまち」と呼ばれるようになってから、多くのマスコミにもとりあげられて、街歩きにぴったりの観光スポットに変わつてきた。	松岡 崇介さん 奈良好き人のつどい事務局 半世紀以上前、大神神社の一の鳥居近くに移り森閑とした境内の空気に触れたのが奈良との出会いでした。橿原神宮・あやめ池へと転居、西大寺や平城宮跡等の自然の中で過ごしてきました。そして奈良の存在感を再認識させてくれたのが奈良好き人のつどいの活動です。他県の何かと比較し、順位付けすることの無意味さに気づき、長い歴史の中で残されてきたものを大切にし、その広い意味での環境を守ることが奈良に住む私たちの課題ではないでしょうか。
武智 功さん 一般社団法人 なら文化交流機構 専務理事・文化事業局長 大和の国は古(いにしえ)の歴史・文化を伝える、まさに「真秀場(まほろば)」の地。国の始まりの地であり、卑弥呼の時代からでも約1千8百年…歴史が古いということは、逆に、まだ国の若いころ、即ち未来を見つめた少年時代の日本の息吹きに触れ得るという事でもある。世界各国が爛熟し過ぎた現代にあって、改めて大和の歴史・文化から学び、今後のあり方を考えることは意義あることだと思われる。大和はそれが可能な地である。	葛本 雅則さん 葛城市在住 40歳で初めて奈良県を離れ東京で生活をしました。東京の人は奈良にたいへん造詣が深く、奈良のプロモーションをする立場の私が、逆に奈良の奥深い魅力を教えていただき、その後また奈良に戻ってきました。「知れば知るほど奈良はおもしろい」のごとく、奈良の奥深さにはまり、日本人の日常生活すべてに奈良の文化がしみついていると感じるようになりました。60歳を過ぎ、県外に6人の孫がいます。孫たちに奈良の魅力を知って欲しい、今は孫たちと奈良観光を楽しんでいます。	山本 晋平さん 社会福祉法人 奈良愛の園福祉会 事務長 15周年おめでとうございます。私が親の転勤で奈良に住んでいたのは中高校生の頃。大学からは東京に戻りそのまま就職。20年近く奈良から遠ざかつていましたが、ひょんなことから前理事長の辰巳さんと東京で知り合い、再び奈良とご縁がつながりました。そこから奈良に移り住み、結婚。今では住むのも奈良。仕事も奈良。人生のすべてが奈良。奈良には人生を変えるほどの魅力があるんです。	西田 真さん 奈良好き人のつどい事務局 私は元天神戸生まれ、神戸育ち。ただ、私の母方の祖母が奈良の三条出身で、小学校6年まで、朝は母の作る奈良の茶がゆで育ちました。とはいえ、大学は東京で、卒業後しばらくは東京で仕事。30代後半に神戸に戻つて大阪で仕事。奈良に來たのは小学校5年と、中学一年の遠足のみ。それが、50を過ぎた頃から妻と奈良の仏像や古墳巡りを始め、「いつそのこと奈良に引つ越したら」と、奈良に來たのが遷都1300年の年。それから15年、どつぷり『奈良沼』にはまつてしまいました。	長岡 光彦さん 奈良好き人のつどい事務局 住みやすい県第8位にランク(大東建託)される奈良ですが、地元民の評価は低いようです。その理由は素晴らしさ、価値を知らないからではないでしょうか。自宅(奈良市法蓮町)から徒歩5分で淡海公(藤原不比等)陵墓や万葉集編者の大伴家持邸宅跡、和氣清麻呂創始とされる興福院がありますが、町内の方の多くがご存知ありません。大仏殿も小学校以来行っていないとか。郷土に誇りを持ち、世界が評価する奈良の素晴らしさを、これからもお伝えしていきたいと思います。	松村 洋子さん 奈良好き人のつどい事務局 結婚して奈良県で住むようになった時、奈良公園を夫に連れられて歩きました。そこら中に鹿がいたのもびっくりしましたが、一番の感動は、教科書やテレビでしか見たことのない場所にいつでも行けることでした。あれから約40年、気づいてみれば、どうしたら奈良を好きになってもらえるのか、奈良を楽しく歩いてもらえるのかと、いつも考えるようになっていきます。普通の人を虜にしてしまうそんな魅力が奈良にはあるのかもしれませんが。これからも奈良の良さをじっくりと探して行きたいです。
熊谷 和彦さん STUDIO ROBIN 代表 奈良との出会いは、『歴史読本』の編集長をしていた石井久恵さんから辰巳さんを紹介されたことでした。辰巳さんの熱い奈良愛に触発され奈良を訪れ、瞬く間に好きになりました。存在感ある仏像や古代の世界をそこかしこに垣間見れる土地は他にはないものだと奥深さにハマりました。奈良は歩いて旅をするのにちょうど良い広さで、出張で関西に行く際、必ず奈良に泊り、ぐるぐる歩き回っています。これからもますます奈良好きに出会い、奈良を楽しむ活動ができたらと思っています。 		山本 晋平さん 社会福祉法人 奈良愛の園福祉会 事務長 15周年おめでとうございます。私が親の転勤で奈良に住んでいたのは中高校生の頃。大学からは東京に戻りそのまま就職。20年近く奈良から遠ざかつていましたが、ひょんなことから前理事長の辰巳さんと東京で知り合い、再び奈良とご縁がつながりました。そこから奈良に移り住み、結婚。今では住むのも奈良。仕事も奈良。人生のすべてが奈良。奈良には人生を変えるほどの魅力があるんです。	15年の軌跡 奈良好き人のつどい 発行日 2025年3月 発行元 NPO法人 奈良好き人のつどい 発行人 徳永 祐巳子 企画 NPO法人 奈良好き人のつどい 協力 奈良好き人のつどいを支えてくださるみなさま 対談記事作成 もりき あや デザイン／CARAVAN2 印刷／株式会社 明新社 〔事務局〕 〒630-8001 奈良市法華寺町1411-1 narasukibitoclub@gmail.com http://narasukibito2.com  NPO法人 奈良好き人のつどい 事務局メンバー		